7月の道内景況

情報連絡員レポート

景況感に改善は見られず 厳しい状況つづく

概況

主要DIの推移では、「売上高」「収益状況」で若干改善したが、「景況」は悪化した。

業種別に見た前月との比較では、製造業では「収益状況」「販売価格」「取引条件」で若干改善したが、「景況」「雇用人員」が悪化した。非製造業では「販売価格」「雇用人員」以外の項目で若干改善したが、大半がマイナス域での推移となった。



景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比
業界の景況	△16.3	△18.2	△1.9	△25.0	△34.4	△9.4	△11.1	<u>△</u> 8.9	2.2
売 上 高	△12.8	△ 6.8	6.0 *	△12.5	△12.5	0.0	△13.0	△3.6	9.4 •
収益状況	△15.1	△11.4	3.8	△21.9	△18.8	3.1 *	△ 11.1	△7.1	4.0
販売価格	5.8	2.3	△3.5	6.3	12.5	6.3 *	5.6	△3.6	△9.1
取引条件	△ 4.7	0.0	4.7 1	△ 6.3	0.0	6.3 *	△3.7	0.0	3.7 •
資金繰り	△ 5.8	△ 4.5	1.3	△12.5	△12.5	0.0	△1.9	0.0	1.9 •
雇用人員	△ 5.8	△ 10.2	△4.4	0.0	△ 3.1	△3.1	△9.3	△14.3	△5.0 ` \

(凡例) 30以上 10~29 9~△10 △11~△29 △30以下

天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」) したという回答(構成比) から「減少」(または「悪化」) という回答(構成比) を差し引いた値(D·I) をもとに作成。その基準は上記のとおりである。

製诰業

- ・暑い日が続くと家で調理しなくなるため、売上は落ちる。(水産食料品/全道)
- ・人材不足は相変わらず。各社人材確保のため、様々な企業努力をしていることで、収益は減少。また、原材料、人件費、包材、物流費が上がる中、思うような値上げが出来ず収益が減る一方。 (めん類/全道)
- ・6月単月で、味噌は前年比減。道内の1~6月の累計では前年対比、味噌 100.3%、醤油99.3%。7月以降の出荷に期待したい。 (味噌・醤油/全道)
- ・7月は低温、雨続きの天候が影響し、飲料に対する需要が伸び悩んだ。組合員の苫小牧市内のホテルの話だが、韓国からの旅行客のキャンセルが相次ぎ売上予算に狂いが生じてきている。全道に広がっていることと思うが、飲料業界にも影響は出てくることが懸念される。 (飲料/全道)
- ・製材市況は、カラマツ、エゾ・トドマツは保合。原木市況も、カラマツ、エゾ・トドマツは保合。カラマツ原木は、回復している地域もあるが不足感はまだまだある模様。製材の受注は8月くらいまではあるようだ。ラミナの動きがやや低調。エゾ・トドマツ原木は、例年並みまで回復しているが、地域差がある。いまだに小径材は不足している模様。

原木価格が高値であることから製品の値上げもしたが、ここに来て受注にかげ りがある企業も出て来ている様子。 (一般製材/全道)

・選挙の年のため発注が遅れているが、今後道内の工事において需要が見込め

る。国の補正額は、前年を下回る予想。(窯業・土石製品製造業/全道・砂利)・自動車、鋳鋼品、建設機械は普通。水道資材、農業機械・一般鋳物はやや悪い。米中貿易摩擦の影響が鮮明になってきている。運賃の値上げ、労務費や運賃コストの上昇で負担が拡大している。景気の落ち込みで労働力不足は緩和傾向。 (銑鉄鋳物/全道)

・組合員の業況

厳しい経営環境におかれている。この時期に働き方改革等に対応しながら人材 の確保維持と育成を行っていくことは簡単ではないと思われる。熟練技能者の 退職、年齢構成の偏りなどで思うように技能伝承が進んでいない。

・造船業界の状況

為替動向は、5月以降ドル/110円を切る。円高が続いており収益の低下要因になっている。韓国、中国造船の安値受注攻勢に苦しんでいる。

(金属製品/函館)

・建設業界の人手不足がより深刻な状況に加えて、資材の調達も難しい状況となっている。大手ホームセンターがチラシ広告から新聞に直接広告を掲載し始めており、中小印刷業者にも影響が出始めている。保湿成分のある高級ポケットティッシュの需要が増しており、製造している業者は設備拡大を図っているが、生産が追いついていない。 (金属機械工作/札幌)

非製造業(卸・小売・商店街・サービス業)

- ・事務機器、科学薬品等企業向け商品は堅調であるが、一般消費者向け商品はや や低調に推移している。雑貨類では季節商品の動きが鈍く定番商品は底堅く安 定している。靴履物ではスニーカー、スポーツカジュアルが順調だが、サンダ ル類が不振。商品の先読みが難しくなっている。在庫削減により物流の効率化 を図る動きとなっている。団地再整備は12月の建物完成に向かって順調に工 事が進行している。
- ・令和になって初めての夏を迎え、十勝は当初、雨や曇りの日が多く、7月後半になると急激な真夏日や猛暑日が続き、各組合員は商品の仕入れや販売において天候や気温の予測がつかない部分や従業員への暑さ対策にも苦労したと思われる。 (各種商品/帯広)
- ・10月1日からのキャッシュレス・消費者還元事業において、A型決済事業者 (キャッシュレス発行事業者)、B型決済事業者(キャッシュレス加盟店支援事業者)、登録手続きが終わり、加盟店募集を開始している。(各種商品/札幌)
- ・食料品をはじめ生活必需品の売上が安定して堅調であるが、QR決済をはじめ 他社との競争が激化している影響からか、前年より微減となった。キャッシン グにおいても、前年より減少し、収益では取引経済条件の低減により悪化して いる。 (各種商品/旭川)
- ・季節商品の小樽産うにが、中元商品となり、各店売上高が増加したが、うには 価格や注文数の取りまとめなどの販売条件が毎日違うため、忙しいわりには収 益が思うほどなかった。 (各種商品/小樽)
- ・7月取扱高は、前年比102%の状況。天気が良い日が多かった影響か、少し商店街の人通りが良かった。10月消費増税によるキャッシュレス消費者還元事業の参加加盟店申込み受付が本格的に開始されているが、販売店によっては良く理解されていない場合が多く、これから実施に向けて受付が混み合いトラブルとならないことを望む。 (各種商品/苫小牧)
- ・7月の各組合員の状況について
- 7月の各組合員の状況です。特に衣料品関係の組合員からは天候不順の影響もあり、厳しい状況が続いたとの声が多かった。他の業種においても増税前だが駆け込み需要的要素も感じられず衣料品関係同様の声が多かった。
- (各種商品/釧路)・ニューヨーク市場のWTI価格は7月1日59.09ドルで先月6月のスタートから見て5.6ドルの反発でスタートした。これは米中の貿易協議再開合意で需給回復思惑並びにロシア、サウジがOPECの減産合意を年内とその後数か月続けると発表したことが反発の要因となった。その後中東情勢の悪化、米国とイラン関係悪化の警戒感とその後緊張状態の緩和等種々の要因も含めて反発反落を繰り返し7月31日のWTI原油価格は58.58ドルとなっている。
- ・組口具用券 7月卸値は若干の値上げで推移し、小売店の販売価格も修正されず推移した。

収支状況では従来と同じく量販店の安値攻勢により、一部厳しい利益口銭の圧縮にて推移している。 (燃料小売業/旭川)

・週末の天候が良かったため、売上が回復してきたようだ。

(自転車・自動車/全道)

- ・インバウンドのお客様が減っている。売上が前年より落ちた。入荷はイカ、さんま、鮭等が良くない。 (各種食料品/札幌)
- ・夏休み、観光シーズンを迎え、入店客数も増加に転じている。外国人観光客も順調に入店した。夏に合わせた子供向けのイベント開催により集客にもつながり、臨時アルバイトを採用した点では、雇用人員の増加となっている。

(鮮魚/釧路)

- ・組合の昨比 94.7%。スーパー、食料品関連の昨比は 92.7%、家賃販売関連は 昨比 92.5%、ホームセンター・金物関連は昨比 97.2%。最近では全体として 7%近くの大きなダウンとなったが、利用者数は 98.2%で、それほど下がって いない。一部食品関連の値上がりの影響の可能性がある。 (各種商品/芦別)
- ・7月の販売数量は、後半夏日などが多かったこともあり、エアコン利用等によりガソリンの販売量は大幅に増えたが、石油製品全体では、消費者の節約基調が変わっていないこともあって、前年同月比減となっている。また、節電 PR 等が拍車をかけていることもあり、消費者の節約意識は一層活発となっており、経営環境は依然厳しい状況が続いている。 (燃料/全道)
- ・新車価格の上昇により、小売単価も少々上がった。営業マン等の人材の確保が 大変とのこと。 (中古自動車/札幌)
- ・国内のシステム開発需要は旺盛で SE の稼働率も高まって大手システム開発企 業を中心に収益が拡大している。特に、製造業を中心に生産性の改善を目的と した、AI や IoT、RPA のシステム開発投資が伸びた。今後はさらに、自動車 向けの車載組み込みソフトの開発、キャッシュレス決裁に絡む QR コードの決 済システム、次世代通信規格「5G」関連のネットワークシステム構築等のシ ステム開発投資の拡大が続く可能性が高い。その開発需要は道内の中小受託開 発口企業に少なからず発注されることになりそうで、すでに、仕掛かり案件 の継続や新規案件の打診が来ている。また、2020年1月にPCの基本ソフト (OS)「ウィンドウズ7」のサポートが終了する。米マイクロソフトのサポー トが終了すれば、セキュリティの脆弱性や不具合の更新プログラムが提供され ず、使い続けるリスクが高くなるため、買い替え需要が世界規模で発生すると 予測され、PCのフル生産が続いているという。国内では大企業の新 OS 「ウィンドウズ 10」への移行が進んでいるが、道内中小企業でもこれを機に、 10月の消費税率変更(軽減税率の導入)へのシステム変更と合わせて、自社 サーバーからクラウドサービスへの乗り換えも一緒に片付けたいと考える企業 が多く、中小 IT 企業への問い合わせが増加している。 (ソフトウェア/全道)

非製造業(建設・運輸業)

- ・7月の業況は、組合において電力関連工事で新電力以降に伴う計測器取替工事 (スイッチング) は前年同月に比較して3割程度の減少。この先の見通しも減 少すると予想されるが9月位まで様子見していきたい。一般電気工事は、引き 続き公共はやや好調、民間住宅は昨年より減少している。 (電気工事/全道)
- ・地域の実情と組合員の業況

今年の天候は、日照不足で曇天の日が多く、秋の収穫時期の作物への影響が懸念される。また、加盟業者の社員は各現場に張り付いており、日々の個人住宅やアパートなどの水廻りのトラブルに関する修繕は1~2ヶ月先となっている。公共事業及び民間工事ともに自然災害の影響もなく、順調な進捗状況で、前年同期並みの受注を見込んでいる。

・問題点

10月までの工期の事業は、ほぼ発注されており、後半の市の補正予算情報がまだない状況。 (管工事/名寄)

- ・全般的には荷動きは少ないようだが、後半から野菜物が動き始めた模様。人手 不足は進行中である。 (一般貨物自動車運送/小樽)
- ・青果物は、産地によって出荷量のバラつきがあるが概ね良好。馬鈴薯、玉葱、は昨年より出来は良い。一般カーゴに関しては、前月に引き続き良くない。鉄骨、部材関係も落ち込んでいる。本州からの到着貨物も減少傾向にある。域内輸送は、まずまずの状況にある。飲料関係は前半荷動きが悪かったが、下旬以降の猛暑もあり取り戻しつつある。 (一般貨物自動車運送/石狩)
- ・売上高は前年同月比 4.3%減少、乗務員数は前年同月比 6.9%減少、6 月分チケット取扱高は前年比 6.8%減少。 (一般乗用旅客/旭川)
- ・昨年の地震に伴う災害復旧工事により、ダンプ業者は需要が高まり、運賃や取引条件は好転しているが、業界全体ではまだ活況とはいかない。

(一般乗用旅客/苫小牧)